

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2004-042231	
起案日	平成22年 1月22日	
特許庁審査官	大島 忠宏	3966 4Q00
特許出願人代理人	▲高▼野 俊彦 様	
適用条文	第29条第2項	

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記のパブリケーションに記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

理由1

(1) 請求項1-4

- ・引用文献1-4
- ・備考

引用文献1の実施例4、7には、疎水化酸化亜鉛、揮発性シリコン、アルキルトリメチコンが配合された日焼け止め化粧料が開示されている。

また、引用文献2には、本願請求項1の【化1】、【化2】として記載された化合物で化粧料用の顔料粉体を表面処理する旨、段落【0019】には、亜鉛華（酸化亜鉛）の処理にも適用できる旨の記載がされており、さらに、当該顔料粉体は撥水性および撥油性に優れるものであって、サンスクリーン化粧料にも適用できる旨の記載がされている。

そして、引用文献3に記載されているように、サンスクリーン化粧料に配合される粉体には、撥水性および耐久性が求められることも公知である。

とすれば、引用文献1に記載された疎水化酸化亜鉛として、撥水性、撥油性に優れた引用文献2に記載された表面処理剤で処理された酸化亜鉛を用いることは

当業者が容易になし得たことであり、さらに、引用文献３に記載されているように、粉体の洗浄容易性もサンスクリーン化粧料における公知の技術課題であるから、当該洗浄性についても当然に検討されることにすぎない（さらにいえば、引用文献３に記載されているように、粉体をパーフルオロアルキレン基とヒドロキシ基を有する化合物で処理することによって洗浄容易性が向上するのであれば、引用文献２に記載されたような表面処理剤で処理する際においても、洗浄容易性が向上することは容易に想到される。）。)

また、サンスクリーン化粧料に親油性の界面活性剤を配合することが周知であり（例えば、引用文献 1 の実施例 1-3、引用文献 3 の実施例 3 等）、引用文献 4 に記載されているように、有機変性粘土鉱物を配合することも公知であるから、引用文献 1 の日焼け止め化粧料において、親油性の界面活性剤や有機変性粘土鉱物を更に配合することは、当業者が適宜決定する程度のこととにすぎない。

(なお、出願人も意見書で記載されているように、引用文献1におけるフッ素変性シリコンはシリコン油ではなく、また、その配合量も0.01%～とすることが出来るものであるから、本願請求項1における構成(g)は相違点とはならない。)

引用文献等一覽

1. 特開2003-226631号公報
2. 特開2001-302455号公報
3. 特開平01-180811号公報
4. 特開2002-146261号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C A 6 1 K 8 / 0 0 - 8 / 9 9
 A 6 1 Q 1 / 0 0 - 9 9 / 0 0
- ・先行技術文献 特開平 1 0 - 2 5 1 1 2 3 号公報
 特開平 0 5 - 3 3 9 1 2 5 号公報

この先行技術文献調査結果の記録は拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第三部 環境化学（分離処理） 大島 忠宏
TEL. 03 (3581) 1101 内線3468

整理番号:SD040007 発送番号:051738 発送日:平成22年 1月26日 3/E

FAX. 03 (3592) 6877